

コミュニティの変化を待ち望む女性たち

かつてウッタラカンド州チャモリ県の思春期女性たちがこんなにも自信に満ち溢れていたことがあるのでしょうか。JICAの支援を受けて、デラドゥンのNGO マムタ・サマジク・サンスタと日本のNGO 地球市民ACT かながわ(TPAK)は、女性たちに新しい生き方を提示しています。



チャモリ県カンダイの公立学校の女生徒たち 写真：Poorva Sagar/

チャモリ地区のような丘陵地帯での生活は19歳のアルカにとって楽なものではありません。学校に通う他は母親の家を手伝い、外の世界から遮断された子ども時代を送ってきました。それでも、恥ずかしがりやで人見知りな他の村の若い女性とは違い、彼女は物怖じしない性格で自分に自信を持っています。開業医になる夢を語る声はとても力強く、これまで村の若い女性が当然と思っていた事柄に対して変化を起こすことを決意してします。「女の子も男の子も平等に扱われるべきだと思う。」と彼女は言います。「Kushal Kishori Pariyojna (可能性を秘めた思春期女性プロジェクト)のおかげで健康的な生活を送りたい

と思うようになったし、日々の生活の中での様々な可能性について知ることができました。」と、アルカは目を輝かせてか語ります。

19歳のタヌジャは、サイティ村の出身です。「女の子としての私自身の権利について、今ではよく理解をしています。」と彼女は言います。「男の子と同じ権利、教育を受ける権利、健康への権利、食事と栄養、そしてそれは全て生きる権利と普通の生活を送る権利なのです。」と、タヌジャは指を折って数えていきます。

アルカとタヌジャは、JICAから支援を受けて実施されている、地球市民ACT かながわ(TPAK)と、インドのNGO マムタ・サマジク・サンスタのプロジェクトの影響を受けています。この「女性達の保健・衛生・ジェンダー意識向上のためのモバイル・センターとヘルスキャンプ活動」事業は、Kushal Kishori Pariyojna (可能性を秘めた思春期女性プロジェクト)としてよく知られています。



ガルワール・ヒマラヤの山間に位置するカンダリ村 写真：Geetha/OWSA

ママタ・サマジク・サンスタの J. M. シンさんがプロジェクトについて説明してくれました。プロジェクトは、ウッタラカンド州チャモリ県のガート地区の 40 村に住む、部族や BPL（貧困ライン以下の層）に属する 10 歳から 19 歳の思春期グループを対象にしています。「プログラムを通して、若い女性に自分たちの基本的人権について知ってほしいのです。」と、シンさんは話します。「彼女たちの中にある、リーダーシップや日常生活での知恵を発展させ、彼女たちが社会の主流に加わるようになることが私たちの目標です。」

ウッタラカンド地域では、男女の役割についてかなり大きな偏りが見られます。基本的に男性より女性の方が働き者です。山を車で進んでいた時、家畜の飼料にする草を森から運び出し、大きい荷に隠れている女性をたくさん見ました。村に戻ると、仲間とおしゃべりをしたりカードゲームで遊ぶ男性の姿がありました。TPAK のサブ・プロジェクトマネージャーの浅野美樹さんは、「このプロジェクトの動機付けとなっているのは、丘陵地帯の村に存在する社会的な性差別です。」と話します。「ここでは、女性たちは自分たちの権利に気付いていないのです。」と付け加えました。

ウッタラカンド州チャモリ県の村に住むのは、ほとんどが収入の低い部族の人たちです。この地域の地形と気候は、農業や他の経済活動を難しくしています。これらの村は、雨や雪、地すべりの危険性のため、年に 4-5 ヶ月の間、外界からのアクセスが閉ざされます。医療施設も限られています。



重荷を運ぶ女性

写真： Poorva Sagar/ OWSA

教育を受けることは、少女たちにとってはかけがえのない夢です。村で会ったガート地区の女性たちは、一番近い学校にたどり着くためだけに数キロを歩いて通います。高等教育機関はほとんどなく、学位を取りたいという彼女たちの夢が実現したことはありません。

ママタ・サマジク・サンスタは、ウッタラカンド州で 18 年の活動実績を持っており、経済的に後進的なコミュニティに属する女性の保健、教育設備へのアクセスや持続的な生計確保のため、女性の能力開発を行ってきました。

プロジェクトは、チャモリ県のガート地区での活動を 2 年間で 40 村に広げました。思春期女性たちを制限された生活範囲から連れ出すことによって、彼女たちが新しい自分を発見し、自信を持つように活動してきました。プロジェクトは、健康に関する情報を知ってもらうことや協同意識を育むこと、より良い人生を送りたいという欲求を持つてもらうために必要な情報を提供することを目的としています。

このプロジェクトは、健康と栄養に関して思春期女性を教育することにより、コミュニティにとって良い効果が得られるという前提に立っています。成長するに従い、健康な若い女性は家族の健康の管理や出産など、様々な役割を担うことになります。知識を増やすことで自信を持つようになり、男女平等についての意識を持つようになります。たいていの女性たちは家庭において食事の準備を担っているため、栄養に関する知識を持つことは家族全員の健康や栄養状態の改善に繋がるのです。

プロジェクトのコーディネーターのシャカンバリさんは、バイラグナ村の出身です。親しみやすく優しい彼女は、訪れる先々で女の子たちの信頼を得ています。プロジェクトに参加して8ヶ月で、彼女とチームメンバーのマノージュさん、地元のボランティアのルクマさんは、対象村で思春期女性グループを組織しました。各村から2人をピア・エデュケーター(PE)、別名 Kishori Netas(ヒンディー語で思春期女性リーダーの意味)として選出しました。

20名の Kishori Netas たちの第一団は、デラドゥンで研修を受けました。研修は3日間にわたって行われ、生活に必要な知識やリーダーシップについての講義が行われました。一年の間に全ての Kishori Netas が四団に分かれて研修を受けることになっています。

Kishori Netas として選ばれることで、彼女たちの中に達成感が生まれ、その重みを感じるようになります。研修から戻ると友達にデラドゥンへの旅について興奮して話します。彼女たちは村の仲間と一緒に、新しく得た知識や技術を皆で共有する集会を2週間ごとに開く計画をしています。これらのミーティングでは、女の子たち同士が交流し、自分の抱える問題や夢、また衛生や健康的な習慣について話し合う場になります。Kishori Netas には、自分の知らない世界について学ぶきっかけとなるよう、何冊かの本が与えられます。

移動式センターとヘルスクャンプ



カンダリの中学校で男女平等についての講義に参加する女生徒たち イギリス人ボランティアのアンドリュー・ホイル医師とローズ医師、校長と教師たちが見守る 写真: Poorva Sagar/OWSA

通訳のマノージュ(右)を介して口腔保健について話す浅野美樹さん(左) 写真: Poorva Sagar/OWSA

彼女たちの限られた行動範囲に配慮して、プロジェクトでは40村を巡回する移動式センターを走らせています。バンには健康や衛生、教育、男女平等に関するポスターが展示されています。講義はゲームや演習を取り入れ、女性にとって有益な情報を楽しく伝えるように構成されています。

移動式センターと定期ヘルスキャンプは、対象村の村人の知識のずれを埋めることを目的としています。例えば村人たちは、テレビで新しいブランドのヨード塩についてのコマーシャルを目にしていますが、食事におけるヨードの重要性については全く知りません。ヨードの欠乏によって、精神遅滞や発育の遅れ、また、疲れや虚弱症状が出る甲状腺腫（甲状腺の腫れ）といった重大な病気になり得るということは知られていないのです。

講義では、思春期の子どもの成長に必要とされるたんぱく質や、生理中に必要となる鉄分、また、その他の微量栄養素の重要性について話されます。鉄やミネラルを含む食事や青物野菜、栄養補助食品に関する知識が不足しているため、多くの女の子に栄養素の欠乏が確認されています。

この地区で有名なカンダリの中学校は、小さな村とガルワル・ヒマラヤの山々を見晴らす場所にあります。舗装されていない道を1時間かけて、やっと辿り着きました。ヘルスキャンプを観察していると、約50人の女の子は最初は恥ずかしがったり、いぶかしそうにしているのですが、すぐに笑顔で質問へ答えるようになります。Kushal Kishori プロジェクトのテーマソングが始まると一緒に歌いだし、すぐにプログラムに熱中し始めます。

女の子たちは質疑応答を通して、食事に含まれるヨード塩と鉄分の重要性について学びます。浅野さんが手洗い方法を簡単な歌に乗せて示すと彼女たちも真似をし始め、次に歯磨き方法の説明に移ります。

一方で、ボランティアの医師が一人ひとりの女の子の健康状態を確認し、身長、体重、血圧を測り、食事と健康についてのカウンセリングを行います。必要と診断されれば、鉄、ビタミンのサプリメントと薬が処方されます。診断の後には、健康状態が記載されたカードがそれぞれの女の子に支給されます。

一日の最後には、女の子たちは各自の村の Kishori Netas に紹介されます。彼女たちは Kishori Netas が準備する2週間ごとの集会に参加することを約束し、この集会で話し合ったことに関連する本や雑誌、ニュースレターなどが置いてある村の図書館を利用することに同意しました。



ヘルスキャンプで思春期の女の子を診察するイギリス人ボランティアの
アンドリュー・ホイル医師（左）写真： Poorva Sagor/ OWSA



健康カードを手にする女生徒
写真： Poorva Sagor/ OWSA

ヘルスキャンプで村々で検診を行うと、女の子の約 80%に貧血の症状が見られました。また、体調不良や病気は、健康に関する知識の欠如によって引き起こされているということも分かりました。そのためプロジェクトでは、十分な水を飲むこと、野菜などを取り入れた健康的な食事を心がけること、また日常で清潔を心がけることに重点を置いた講義を行っています。一部の女の子には、鉄分のタブレットとビタミンサプリメントや薬が処方され、適切な食事についてのアドバイスを受けます。



ライフスキル祭で満員の会場
写真： Geetha/ OWSA

ライフスキル祭が、ガット地区の **Kasturba Gandhi Residential Girls' Hostel** で開催されました。ガット地区の教育部門の役人や地区の学校の校長、ICDS（女性・子ども開発省の総合育成サービス）の役人といったゲストを迎え、18村から35人の女の子が参加しました。テンプオ良くプログラムが進行していく中で、女の子たちがクイズなどでゲストや参加者を盛り上げます。学校帰りの男の子や幼児を抱えた若い母親たち、おばあさんたちも建物の屋

上から不思議そうにプログラムを眺めていました。一連の催しの最後に、シンさんは参加者に感謝の言葉を述べ、男女平等を達成するためには男の子や男性たちが重要な役割を果たす、という事を付け加えるのを忘れませんでした。

ライフスキル祭は半年ごとに開催され、女の子たちが集まって新しい経験をしたり、彼女たちの知識や技術を磨く機会となります。

活動の継続に向けたコミュニティの協力

このプロジェクトが特徴的なのは、様々な現地の関係者を活動に巻き込むやり方です。政府の役人や、アーガンワディー職員（アーガンワディー：0-6歳児を対象にした政府が支援する子どもセンター。保育や母親のための施設としても機能している。）、ANM（政府の保健スキームの下で活動する准看護助産師）、ASHA（村の保健ボランティア）からの支援を得てプログラムを進めています。

シンさんによると、2012年のプロジェクト終了後も活動が続くよう、この活動を政府スキームのひとつに組み込んでもらうための働きかけを行っているそうです。

プロジェクトで難しいのは、娘に対する親の態度を変えることです。プロジェクト実施側が女の子や両親との関係性を築き、プロジェクトへの参加を納得してもらうまでには長い時間がかかります。しかし、ヘルスキャンプで出会った女の子の多くは、母親がプログラムへの参加を後押ししてくれたと言います。

方法論として、若い女性を対象にすることは効果的であると考えられます。思春期は、女性に自信や気付きを植え付ける良い時期です。彼女たちの村での存在感が増すということによって、家族を育むことだけでなく、強い社会、強い国を作ることへと繋がる可能性が秘められています。